

# 長光寺だより



## 「あいさつ」

今年も残すところあと僅かとなりました。皆様におかれましてはいかががお過ごしでしょうか。

上の画像は長光寺の庭にある元々は獅子の像でござい  
ます。昔から禅宗では獅子の吼える姿を仏陀や禅の高  
僧の説法になぞられており、お寺の境内には獅子の像を  
よく見かけると思います。

これは永嘉玄覚という方が書かれた証道歌にある「梅  
檀林に雑樹なし、鬱蜜深沈として獅子のみ住す」（梅檀  
という香木の林には梅檀以外の雑樹はない。しかもこの  
梅檀林は鬱蒼と茂っていて、百獣の王と言われる獅子のみ  
が住む。）という文が一つになっていると思われれます。

室町時代後期、曹洞宗の僧侶を育成するための学校  
がありました。江戸時代になりますと吉祥寺の「梅檀  
林」へと展開致します。そこには常に千数百人の学僧が  
学び、幕府の昌平黌（江戸幕府の学校）を凌いでいたとい  
われています。そこで学ぶ僧侶のことを「梅檀林の獅子」

と呼ぶようになりました。そのような経緯もあり、多くのお寺には、獅子の像が境内などに置かれたのではないかと思います。

私の母校である世田谷学園や駒澤大学も校歌に梅檀林の獅子という言葉がでてきます。世田谷学園では学校に通う生徒を獅子児と呼び、未来ある若者たちへの期待や希望を表しております。

長光寺の獅子の像は長い間風雨にさらされこのように丸くなってしまいました。お参りにいらした方にどうして蛙の像があるのですかと聞かれたこともありましたが、これは蛙ではなく百獣の王である獅子の像なのです。

話はそれますが、長光寺には古い建物の時から境内に大きな蛙が住んでおりました。本堂建設工事の後、姿が見えなくなってしまいました。しばらくするとまたある時から墓地の片隅で蛙を見かけるようになりました。そういったこともありホームページにはカエルのイラストを使用しております。

現在では獅子の面影がなくなり、一見すると蛙の像に

見えます。長光寺は蛙とご縁のあるお寺であり、皆様の帰る場所、故郷に帰るような心地でありたいという願いもございまして、庭先で今でも長光寺とお参りに来る皆様を見守って頂いております。

元号が変わり、新しい年を迎えましたが、これからも皆さまを温かく迎え入れられるようなお寺を目指して精進していきたいと思っております。

皆様大変多忙な毎日を送っておられると思います。寒い日が続いておりますが、どうぞご自愛くださいませ。



## 朝の食卓

松倉 太鋭

今年は自然災害、とくに台風の被害が多く、各地で甚大な被害がありました。台風が大型化しているためといわれています。大型化する原因は地球温暖化にあるといわれています。温暖化は人間の快適な生活追求がその一因といわれています。

私どもが一昔前の先人の生活ぶりを思い出し、少し抑える生活をする事。そして温暖化によって被害を被る人達のことをおもんばかることが、これからは大事な事かと存じます。

心は時間と空間を超えて存在します。自分の思うようににしたいという心。このころをコントロールすることは、いつの時代を生きても大切な心得となることでしょう。

私ども少し寒くなったり、暑くなったりすると、すぐエアコンのスイッチを入れてしまいます。そんなときに先人の耐えた生活を思い出していただきたく存じます。

明治から大正かけて生きた不運の歌人に、石川啄木がいます。啄木は有り余る才能を抱きながら、パンのため

自分の天分を世間の誰もが認めてくれない。自分としては不本意な仕事に止むを得ずつながれている。しかも生活が貧しい。来る日も来る日も、怏々として一切の束縛から解放されて、自由な旅を憧れていたようです。

旅を思う夫のころ

叱り泣く妻子のころ

朝の食卓

いつも借金の言い訳ばかりさせられている奥さんは、啄木に向って吐き出せない鬱憤を子どもに爆発させる。子どもは子どもで好きにものを満腹に摂れない食事をどうにかしたいと駄々を言う。

こんな石川家の朝食風景と同じ思いをしたのが、島崎藤村でした。藤村も小説家として生きたため、貧しい生活を余儀無くされました。

長光寺は、藤村ゆかりの寺となっています。墓所を通る時にはいつも藤村文学の犠牲になった子ども達や奥さんのことを思い出すことにしています。

なお、文学の才能に恵まれた石川啄木の父親は曹洞宗の住職をしていました。

## 釈迦の生涯を描いた絵

今年に入りましてお寺の荷物を整理しておりましたところ、住職の修行時代に海外の方から頂いた仏陀の生涯を描いた絵が見つかりました。五十年近く前の絵ですがきれいな状態で保存されていたため、額に入れて地下の通路に飾らせて頂きました。中々地下にまで行く機会はないかと思いましたが、機会がございましたら、じっくりとご覧になってください。



## お塔婆申し込みが便利に

今まではFAXなどで申し込んで頂いておりましたが、長光寺のホームページからお塔婆を申し込むことが出来るようになりました。申し込んだ際は申し訳ありませんが、確認のため電話でご一報ください。

## 施食会のご案内

今年も施食会が五月二十三日にございます。ご先祖様の供養のため、是非とも奮ってご参加下さい。

## 坐禅会のご案内

第一、三土曜日は経験者の坐禅会。第二土曜日は初心者坐禅会を開催しております。その他梅花講などもあります。詳しくはホームページをご覧ください。

## 編集後記

元号が変わり一年を終え、また新しい年を迎えようとしています。今年も印象深い出来事が沢山ございましたが、これからも万難を排し、長光寺とともに精進していきたいと思えます。

玉霄山 長光寺

〒169-0073 東京都新宿区百人町1-5-2

TEL03-3209-5360 FAX03-3200-7026 HP <http://www.chokoji.net/>

